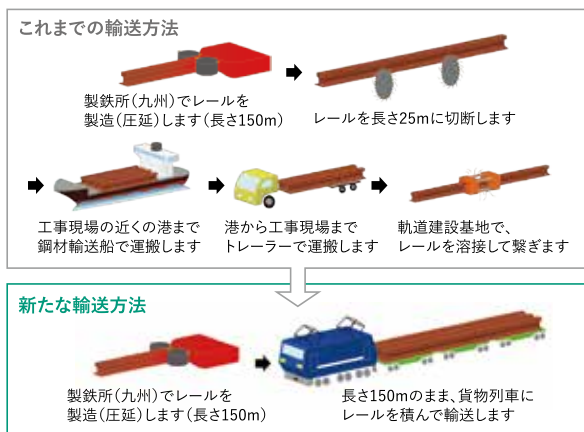




150mレールを積み仁山駅～大沼駅間を走る貨物列車。積載されたレールが、カーブに合わせて曲がっている様子が分かる。

北海道新幹線の150mレール 貨物鉄道輸送を開始



長万部駅では長万部町長をはじめ町民の皆様が盛大にお出迎え



150mレールは、9台の門型クレーンで1本ずつ取り卸す(長万部町内)

新幹線を つくる

Vol.49

鉄道・運輸機構(JRTT)は、北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。



整備新幹線に敷設するレールはこれまで、製鉄所において長さ150mで製造した後、そのままでは積み卸しや輸送が困難であるため、長さ25mに切断し、鋼材輸送船、トレーラーで軌道建設基地に輸送して、敷設現場でレールを溶接して繋げていました。

長さ150mのレールについては今回、在来線と北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の工事現場が隣接している長万部駅(山越郡長万部町)において取り卸スペースが確保できたことから、貨物列車による輸送が実現しました。整備新幹線工事における150mのレールの貨物列車輸送、この貨物列車が青函トンネルを通過することは、いずれも初の取り組みです。

今回の輸送は、黒崎駅(福岡県北九州市)から関門トンネル、青函トンネルという2つの海底トンネルを通過し、長万部駅までの距離約2,100kmを約4日間かけて輸送するものでした。

長さ150mのレールを使用することで、溶接作業が少なくなり、レールの弱点である溶接部分が無くなることによる品質向上、また製鉄所から工事現場まで積み替えなく、一貫して貨物列車で輸送することで、モーダルシフトによる環境負荷の低減等が期待できます。

今後も難しい工事が続きますが、一日も早い開業に向けて最大限努力してまいります。

Instagram



最新の建設情報は
こちらよりご覧いただけます。